（官二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十五年九月八日（日曜日）　臺灣日日新報　第一万四千五百四十五號　A、（一）

臺灣日日新報

九月七日　夕刊定價一部二錢
夕刊
臺灣日日新報社
臺北市榮町二丁目廿番地
發行所　臺灣日日新報社
（電話臺北（三）五番）
臺北市榮町二丁目廿番地
臺北支局
基隆市仁愛路
基隆支局
新竹市中正路
新竹支局
臺中市綠川町
臺中支局
花蓮港街入船町
花蓮港支局
臺南市末廣町
臺南支局
高雄市新濱町
高雄支局
大阪朝日新聞臺灣總局
（電話大阪（三）五一〇番）
東京支社
印刷兼發行人　江口渙　作

ヒーラギの
小兒牛乳
電話 2033・5008

結局は一本建組織へ
小委員會で練り直し
中旬には審議を完了

【東京七日發同盟】新體制準備會第三回總會は來る九日午前十時より首相官邸に開催されることとなつたが、同會は第二回總會に於ける決定に基き、協力組織の基本理念、組織大綱、綱領及び綱領等を具體的に審議決定するため、更に小委員會を設置することとなつたが、同小委員會は來る十日より開催されることとなつた。尚小委員會は各界を代表する委員二十名を以て構成されるが、委員の人選は總會の決定に基き、近衛首相一任の形式を採ることとなつた。

【東京七日發同盟】新體制準備會第二回總會は七日午後二時より首相官邸に開かれ、近衛首相、松岡外相、平沼樞相、東條陸相、吉田海相、小林商相、村瀨法制局長官、安井内相、風見書記官長、後藤厚生相、小川農相、藤原農林次官、小泉商工次官、岸情報部長、大政翼贊會の有馬事務局長、津雲國平氏、安藤紀三郎氏、赤松常子女史、藤澤親雄氏、大政翼贊會の各部長、各道府縣の代表者等百數十名が參集、午後二時十分近衛首相は議長席に着き、開會の辭を述べ、次いで松岡外相、東條陸相、吉田海相、小林商相、村瀨法制局長官

強力な言論宣傳陣
近づく司法保護記念日に

臺北における各種の司法保護團體は來る十日は豫防の日く記念の感激を新たにすると共に各地に於ける記念の催しを一層有意義ならしめるため左の如く協議會を開き

十日より一週間に亘り講演會を開催

十日　家庭婦人　北門小學校
北一中　國語講習會
四工　國語講習會
臺北第一高女　國語講習會
臺北第一高女　日本語講習會
十一日　青年男女　技能講習會
十二日　未定
十三日　未定
十四日　小公學校訓導に對し司法保護に關する講演會
十五日　中等學校講演會
北一師　下一時
北一師　講演會
十六日　北一師　講演會
十七日　女子高等學校　講演會
十八日　池田政務部長　警察に關する講演會

若者よ〝土へ還れ〟
業佃協調週間を實施

臺北州では農繁の折〝國力の充實は先づ食糧の確保から〟〝農業は即ち國防なり〟の聲々のスローガンを掲げ來る十三日から十九日迄一週間に亘り擧州下一圓に農業協調週間を實施し農村を離れ勞働生活へ走つて行く農家に〝土へ還れ〟と一層の農業に力を傾注せしめ

本島からの留學生
南京で大歡迎
劉新民總公會代表の歸來談

【南京七日發同盟】南京總公會代表劉新民氏は去る八月十六日南京中央大學への留學生歡迎會に出席してゐたが同氏は去る八月十六日南京中央大學への留學生歡迎會に出席してゐたが同氏は去る八月十五日夜南京に歸着したので八日午前十時より新京總公會に於て歡迎會を開催した、席上劉氏は本年一月以來の日滿支三國間の親善關係の進展に關し詳細報告した

獨機の急降下爆撃
UP記者の空襲觀戰記

【ニューヨーク二日發同盟】UP記者ハリイヒッキング・ポーサム氏は英佛海峽戰線の某所において一日行はれた獨逸空軍の爆撃機編隊の英機との空中戰を目撃したが次の如く報じてゐる

參加者早くも出發
本社主催大衆合同野營

本社主催大衆合同野營は愈々來る九月一日午前七時半臺北市役所前を出發、一路新竹州新竹市に向ひ、新竹市内各所を見學の上、同日午後三時半新竹市公會堂に於て全島市議代表者會議を開催、翌二日午前十時より

中學でも大學迄でも 安心して勉強出來る 愛兒のための定期年金

自分で貯へる貯金の一つに定期年金といふのがあります。これは他の貯金が何れも四十歳以上にならなければ受取る事が出來ないのに反し子供が誕生と同時に加入する事が出來、二回の受取が出來ます。即ち子供の教育資金として、或は結婚費用の補助のために十九年九月後(七月後)までに十萬圓迄の利用者があります。

株に四月から六月までの配當を見る會社は年齢滿六十の四月五月を定期年金の申込上の四萬九十を占めここらも一般に關心の有る事と思はれます。

一體年金に加入する者は一般から滿十八歳までの者なら男女何れでもよいのであり、勿論醫師の診斷は一切不要です。そして加入子供が二歳の年齢(十二歳、十五歳、十七歳、二十歳)に達した時から五年間或は十年間とか初めの契約の期間が年金を受取ることが出來るのです。

定期年金は二歳及滿歳迄の

賢い子供に 育てるには

山下俊郎

賢い道の必要

賢い子供を作るにはいろいろのことをよく心へなければなりません。

先づ第一は幼兒教育の取扱ひである、幼兒が誕生と同時に泣き出すと直ぐに乳房を與へるやうな取扱ひでは、幼兒が我儘一方になり、又神經質になるのである。

智惠の芽を伸ばせ

第一は幼兒教育の取扱ひである、幼兒が誕生と同時に泣き出すと直ぐに乳房を與へるやうな取扱ひでは、幼兒が我儘一方になり、又神經質になるのである。

知り過ぎの必要

賢い子供を作るにはいろいろのことをよく心へなければなりません。

先づ第一は幼兒教育の取扱ひである、幼兒が誕生と同時に泣き出すと直ぐに乳房を與へるやうな取扱ひでは、幼兒が我儘一方になり、又神經質になるのである。

殊に

幼兒に關する知り過ぎは禁物である、幼兒を甘やかすのは幼兒のためにならないと言ふことは、よく心へてゐる必要があります。

物資缺乏切抜け策

手近にあるものを生かして

自分の手で、手もとにあるものを活かしお互ひに生活をよくしようと云ふ運動が各地で起されてゐます。

例へば、古布を利用して靴やズロース、襦袢、下着の類を作るなど、時節柄とも心得て居る事と思ひます。

作ることは勿論大切ですが、買ったものより愛着のもの出來

重湯で育つ 赤ちゃん 榮養障害

必ず果汁を忘れぬやうに

醫學士 山本 杉

戰時の人工榮養には、今迄牛乳でいゝといふ說が一つ〳〵見えるやうです

現に私の知つてゐる奥さんは、生後四ヶ月の赤兒に次のやうな方法で、大豆と、生米々の人工榮養を與へてゐます

大豆を二十匁、米を約二匁半を一晩水につけて柔らかし、人參、じやがいもの煮たもの、ほうれん草のさんだものを合せて煮て、裏ごしにかけ、牛乳を入れて作るのだそうです。

またこの新しい人口榮養の成分については知りませんが、この榮養でも、人參を二匁に對して大豆と二十匁、米を約二匁半を一晩水につけて柔らかし、人參、じやがいもの煮たもの、ほうれん草のさんだものを合せて煮て、裏ごしにかけ、牛乳を入れて作るのだそうです。

またこの新しい人口榮養の成分については知りませんが、この榮養でも、人參を二匁に對して大豆と二十匁、米を約二匁半を一晩水につけて柔らかし、人參、じやがいもの煮たもの、ほうれん草のさんだものを合せて煮て、裏ごしにかけ、牛乳を入れて作るのだそうです。

障子を貼るときの注意

しては何よりもまず視覺を刺戟するものであり、「美的にうるおいれ」などといふことは大の不得意である、子供の心の眼がまだ主に開けて來、智慧の芽がそこに萠出る時で併し物心ついて來た、その眼はれが體感である、だから體感は子供の心が緊張しやうとするその瞬間である、大體に於つてやりたい、よく遊んでやることにある、四歳までもつと視覺に訴へれば體感を二歳迄に十分にかへしてやると共に、彩へさせることが、もつと大事である、どんな感覺に訴へようと、子供はそれで一旦自分の心に刷つて來た感覺を自分で考へて見るといふ、即ち頭をもつやうになる、本當には小さい頭の中の腦の發育が不足しまう暗闇の發育の頭は、九番目をいくら出しても出ない、子供の心に美を植へ來た感覺の芽を大事に育てること、そして頭を使ふといふことが、子供を賢くする、旅行を與へるのは止めるといふことも有る餘り、大人の欲望からその他に依る子供に、牛乳を與へるとかいふ方法をとること迄、子供は大人の玩具ではありません、小兒は大人の場合と違つて、いつでも發育といふ事が眼標になります、發育は小兒の發育にとつては、目にふれるものの、耳にするもの、凡てが發育の對象となる、その點はれが體感である、子供は皆よくその體感に訴へるといふ方法をとること迄、子供は大豆でも米でも與へるといふ事が必要です

併し、正直に申しまして、乳兒に離乳期食物を與へるといふ點については、牛乳が最の折衷物を與へるといふ點については、牛乳が最の折衷物を與へるといふ點については、牛乳が最の折衷

星ぞら (143)

井伏鱒二

吉田貞三郎

井走（四）

……上回の梗概……

おかみさんと作さんとは、警部補の噂話に花を咲かせながら、茶の間の卓袱台に坐って晩酌をやっていた。大石が警官をつかまえて、また何を云ひ出すやらわからなかったからである。

作さんは聴かしようにロをとがらせてゐたが、そっとおかみさんに耳うちした。

「どうもうるせえ、話は聴きくせえやうだな……皆をへえ使やあ、あの大石ってお爺、聴かまず好かれえ。聴のことを、警官々々と呼びすてにしあがって、今日もまた聴部の親友づらしてやがる。おせつかい野郎だよ」

おかみさんはそれを手で制した。作さんがえらく聴を立ててゐた。そうと大石に、聴でこた様。聴の希望みたいだと察されたのが先づ癪に触ってゐるのである。

「あのお客から見れば、使やどうせ警部の番頭みてえに見えるかもしれねえ。しかし聴は、いやさうちやねえよ云ったが、使のことをそうでも、どうやらこうやらこの警部補さんは、聴の大石さんに好かれてゐるらしいと云ふんだね。警部補さんと作さんとの噂話に花を咲かせながら、茶の間の卓袱台に坐って晩酌をやっていた。大石が警官をつかまえて、また何を云ひ出すやらわからなかったからである。

作さんは聴かしようにロをとがらせてゐたが、そっとおかみさんに耳うちした。

「どうもうるせえ、話は聴きくせえやうだな……皆をへえ使やあ、あの大石ってお爺、聴かまず好かれえ。聴のことを、警官々々と呼びすてにしあがって、今日もまた聴部の親友づらしてやがる。おせつかい野郎だよ」

おかみさんはそれを手で制した。作さんがえらく聴を立ててゐた。そうと大石に、聴でこた様。聴の希望みたいだと察されたのが先づ癪に触ってゐるのである。

「あのお客から見れば、使やどうせ警部の番頭みてえに見えるかもしれねえ。しかし聴は、いやさうちやねえよ云ったが、使のことをそうでも、どうやらこうやらこの警部補さんは、聴の大石さんに好かれてゐるらしいと云ふんだね。警部補さんと作さんとの噂話に花を咲かせながら、茶の間の卓袱台に坐って晩酌をやっていた。大石が警官をつかまえて、また何を云ひ出すやらわからなかったからである。

作さんは聴かしようにロをとがらせてゐたが、そっとおかみさんに耳うちした。

「どうもうるせえ、話は聴きくせえやうだな……皆をへえ使やあ、あの大石ってお爺、聴かまず好かれえ。聴のことを、警官々々と呼びすてにしあがって、今日もまた聴部の親友づらしてやがる。おせつかい野郎だよ」

おかみさんはそれを手で制した。作さんがえらく聴を立ててゐた。そうと大石に、聴でこた様。聴の希望みたいだと察されたのが先づ癪に触ってゐるのである。

「あのお客から見れば、使やどうせ警部の番頭みてえに見えるかもしれねえ。しかし聴は、いやさうちやねえよ云ったが、使のことを……その先には、武藤氏や松原氏も、どうやらその聴の振つきらしい……」

「しかし警官の癖にいつも夢ならなかった。

「振つきかどうかしらないが……とにかくいま君のその様な皆様自慢とうって、皆様を聴についてのことなんかちっともないか。たとへば、皆様を見やすとかいふことは、そのくらゐのことは警察官でさへ云ってゐる。今、われわれ大人がそれをうって、同じになるんだろう」

「こいつ、何といふチクシだ……仕様のない女だ」

大石さんは聴と云ひながらも……

戦勝ドイツと物資

聴部の松原部長が、ドイツ聴察官の聴察と云ふに過ぎず、ドイツ聴察官は聴察しるる。彼ら聴察官は聴察にでてイツは聴察行上、如何なる聴察に聴かについて聴もも聴察官は石炭について聴もも聴察官はローランド、ベルギー、デンマーク、オランダ、ルクブルク、北フランス等の聴察を得たので一九四〇年五月以上しその聴察は聴察官は聴察聴察聴察

臺灣日日新報　第一万四千五百四十五號　昭和十五年九月八日（日曜日）（明治卅一年一月廿九日第三種郵便物認可）（第二版）

獨の對英攻撃近し
羅馬官邊側の言明

【ローマ六日發電】去る四日ヒトラー總統の歸國聲明に依り獨の對英攻撃近しと傳へられたが、六日羅馬官邊筋では獨逸の對英攻撃は當面にありとしやや冷靜な觀測を下すに至つてゐる、即ちムッソリーニ伯からアルツェーに至る獨伊會談は既に完了してゐると傳へられ、又獨逸空軍の對英攻撃は既に大體終了してゐるとも傳へられ、從つて獨逸の對英攻撃は目睫に迫つてゐるとの觀測は當面緩和されたものと見てゐるが、他方獨のかかる聲明の方が有力であるとの觀測も依然として存在してゐる

茲二週間が危險

【ロンドン六日發電】ヒトラー總統の英國攻撃聲明以來英國空軍の英本土防衛に當つてゐる英北部防衛司令官ロナルド・アダム中將は五日イングランド東北部の某飛行場に於て新聞記者團に對し「獨逸人の底力を知るかも知れない」として左の如く述べた

ヒトラー總統は英本土に對する空襲を開始するに當つて、數週間に亙り出來る限り多數の英空軍の勇敢なる戰鬪に依つて擊破する旨聲明したが、獨逸人と云へども人間である以上吾々に同樣なる缺點が存在するであらう、同時にまた獨逸人と雖も

社說

新體制の理念と日本的性格

仁愛と光明に滿たせたい

一

現代は國家の時代だ、政治も經濟も文化も公私生活のすべての部門が國家的觀點と國家的關聯の確立目標として改變され再組織されねばならない。大日本國體に基礎された第二回新體制建設の目標として組織された擧國一致の國家體制の目標を「國力を發揮し以て國防國家體制の完成を期す」と表示してゐる。此の力強き國家改造の理念の下に「一億國民皆兵の國防的觀念」と「一體としてイデオロギー的に統合統制される個人的存在から新國家體制を組織する分子として再組成されねばならない。即ちそこには徹底された個人主義、また國家の目的から獨立した如何なる個人の存在も許されない一億國體のすべてが最分業の理念の下に國家の構成に入りこみ、各分子として國家に奉仕し、國家的機能として夫々の職分に位置してこそ初めて一國體の國防的國家體制は完成するのである。擧言すれば國家は一億國體の一人々々を國家目的の下に「國家に奉仕せよ」とせまるのである。

二

國體機には二つの例外も許されない。現代國家が强い國民生活の發展と向上の要求とにつつある動力である點甲、經濟、協力、一元化の理念に從つて國家の統制と指導を强化し文化と經濟の領域に關する

經濟新體制確立に
民間諸團體の動き活潑

生鮮食糧品の
價格抑制策
市場制度改正と共に近く決定

日滿支
運輸の一元化
連絡新協定成立
十月一日から實施

柑橘類鑑別に
樹皮呈色反應利用
臺北帝大で實驗さる

三府三十五縣の
本年度小麥實收高

農林省發表

廣く官民を集めて
米穀政策研究會
米穀局で計畫中

南日本汽船の
株式引受數決定
十一日發起人總會で創立

株式の値下り甚し
新東は昭和六年以來の安値

鐵道規定改正（續き）
貨物運賃關係の部

内外商況（七日）

株式の値下り甚し
新東は昭和六年以來の安値

三府三十五縣の
本年度小麥實收高

農林省發表

三井物産の
資金調達計畫

生絲は反撥

債券實株

牡丹崩れず (190)

竹田敏彦作
岩田專太郎畫

和平醒明の夜（四）

「……？」

百馬は、驚りにも突然に眩まうたまの眼前な景色に、今はこの手紙が、また、何故かいけないのであらうか——と、不意の眩暈を感つたが、實は紙かに、百馬をうつづけた。

「この手紙に、もう一つ、付け加へてもらひたいことがあります……」

「何ういふことでございませう」

百馬はますく眩暈に眩まれた。

「嘘でもありません、この手紙にある様大使といふ人物ですが、今こそ自ひます、歌舞あつて、私たけはその男を、よく知つてゐるのです」

「あなたが、様大使さんを……」

百馬は眩暈を見つめたが、實に眩けて。

「しかも、敬愛の眩まで、はうまり親密してゐるのです」

「……」

「そこで、この日本の要人を、様大使に會はせてやりたいと思ふんです」

百馬は眩まを感つて、

「大人、たんとうですか、大人」

百馬の眩まは眩しく輝んだ。

「ようす致しましてその人物を直接こちらへ呼んであげてください。あの人眩の良い夜も、今こそ解く明けようとしてゐるのです……」

實は、かういつて、眩らくうる人物の眩かがみるやうに眩外の空に放つたが、

「御承知の通り、今日まで、お互ひに外を眩して眩働に眩してきた新中央眩眩も、やがてこの月内には、彼女を見るだらうと思つてゐるやうな、その時、今その地下に祝んでゐる様大使も、また眩眩として、この世に大きな影を残す時です。その時、二十眩年目の天皇、即ち新たなその人生にも、どんなに光輝ある眩眩を眩現することでせう。様大使は、國家に眩れて、眩夜ベットに外を眩にへても、もうこの頭はその眩りで、夜の眩りへ祝れさうです……」

かう思つて眩る實の眼は、祝眩のうるみに輝き、その瞬には眩眩の血に眩んだ。

しかし、ふうしと百馬が、この眼前の重眩思と、様大使その人であることに眩付くことができ

「嘘大人……では、様さんは、そのやうな人物なのですか」

「大人、様さんは、ふうしてですか、大人」

百馬の眩まは眩しく輝んだ。

「ふうと致しましてその人眩を直接こちらへ呼んであげてください。あの人眩の良い夜も、今こそ解く明けようとしてゐるのです……」

實は、かういつて、眩らくうる人物の眩かがみるやうに眩外の空に放つたが、

「御承知の通り、今日まで、お互ひに外を眩して眩働に眩してきた新中央眩眩も、やがてこの月内には、彼女を見るだらうと思つてゐるやうな、その時、今その地下に祝んでゐる様大使も、また眩眩として、この世に大きな影を残す時です。その時、二十眩年目の天皇、即ち新たなその人眩にも、どんなに光輝ある眩眩を眩現することでせう。様大使は、國家に眩れて、眩夜ベットに外を眩にへても、もうこの頭はその眩りで、夜の眩りへ祝れさうです……」

かう思つて眩る實の眼は、祝眩のうるみに輝き、その瞬には眩眩の血に眩んだ。

しかし、ふうしと百馬が、この眼前の重眩思と、様大使その人であることに眩付くことができなかつた。

百馬は眩まを感つて、眩るやうに實の眩面に、眩くやうに眩眩を眩せつた。

「それも、やがて分ることですが、私は、時期眩つて、眩眩な彼女の立眩に、共に涙することがあるのです……百年一眩の時代、彼女の眩眩を眩しいんとして知つてますどう手眩のために眩くてください眩まもまた大であり、今である、良人であることも、しかし彼には、二十眩年間、その夢もなく、子も宿れて眩ごねばならぬ、不眩な眩國のあつたことを、しかし、今や新ひその眩眩も、良い眩から眩つて、新しい眩と、眩眩から眩つた。

百馬は眩まを感つて、眩るやうに實を見つめたが、

「それも、やがて分ることですが私は、時期眩つて、眩眩な彼女の立眩に、共に涙することがあるのです……百年一眩の時代、彼女の眩眩を眩しいんとして知つてますどう手眩のために眩くてください眩まもまた大であり、今である、良人であることも、しかし彼には、二十眩年間、その夢もなく、子も宿れて眩ごねばならぬ、不眩な眩國のあつたことを、しかし、今や新ひその眩眩も、良い眩から眩つて、新しい眩と、眩眩から眩つた。

「この手紙に、もう一つ、付け加へてもらひたいことがあります……」

「何ういふことでございませう」

百馬はますく眩眩に眩まれた。

「嘘でもありません、この手紙にある様大使といふ人物ですが、今こそ自ひます、歌舞あつて、私たけはその男を、よく知つてゐるのです」

「あなたが、様大使さんを……」

百馬は眩まを見つめたが、實に眩けて。

「しかも、敬愛の眩まで、はうまり親密してゐるのです」

「……」

「そこで、この日本の要人を、様大使に會はせてやりたいと思ふんです」

百馬は眩まを感つて、

「嘘大人……では、様さんは、そのやうな人物なのですか」

「大人、様さんは、ふうしてですか、大人」

百馬の眩まは眩しく輝んだ。

「ふうと致しましてその人眩を直接こちらへ呼んであげてください。あの人眩の良い夜も、今こそ解く明けようとしてゐるのです……」

實は、かういつて、眩らくうる人物の眩かがみるやうに眩外の空に放つたが、

「御承知の通り、今日まで、お互ひに外を眩して眩働に眩してきた新中央眩眩も、やがてこの月内には、彼女を見るだらうと思つてゐるやうな、その時、今その地下に祝んでゐる様大使も、また眩眩として、この世に大きな影を残す時です。その時、二十眩年目の天皇、即ち新たなその人眩にも、どんなに光輝ある眩眩を眩現することでせう。様大使は、國家に眩れて、眩夜ベットに外を眩にへても、もうこの頭はその眩りで、夜の眩りへ祝れさうです……」

かう思つて眩る實の眼は、祝眩のうるみに輝き、その瞬には眩眩の血に眩んだ。

しかし、ふうしと百馬が、この眼前の重眩思と、様大使その人であることに眩付くことができなかつた。

百馬は眩まを感つて、眩るやうに實の眩面に、眩くやうに眩眩を眩せつた。

「それも、やがて分ることですが私は、時期眩つて、眩眩な彼女の立眩に、共に涙することがあるのです……百年一眩の時代、彼女の眩眩を眩しいんとして知つてますどう手眩のために眩くてください眩まもまた大であり、今である、良人であることも、しかし彼には、二十眩年間、その夢もなく、子も宿れて眩ごねばならぬ、不眩な眩國のあつたことを、しかし、今や新ひその眩眩も、良い眩から眩つて、新しい眩と、眩眩から眩つた。

新しき地盤へ

藝術家精神の轉換（四）

古谷綱武

谷川徹三氏が、最近の日本文明史の見解のなかに「綜合の優位」といふことをもつとも重要なる問題として提出されてゐる。今日、藝術家が眩眩されてゐるのは、ひとつにこの綜合の眩眩に眩つた眩眩にあるといふことができよう。藝術家は眩眩家であることによつて、新しい眩眩を眩現しなければならないのである。眩眩家が眩眩家であるためには、ひとつの眩眩の眩立された眩眩の眩眩といふものについて深くと考へることによつて、新しい眩眩を眩現しなければならないのである。

今日、眩眩家が眩眩家であるためには、ひとつの眩眩の眩立された眩眩の眩眩といふものについて深くと考へることによつて、新しい眩眩を眩現しなければならないのである。

この眩眩のなか

臺灣日日新報　第一万四千五百四十五號　(五)

愛國青年隊結成

全郡下の男女青年を一ケ月研修所で再訓練

【臺中特電】臺中州下に於ける青年團の組織は、既に全部完了し、目下各郡市に於ては、夫々青年團の指導者を集めて講習會を開催し、團員の訓練に努めつゝあるが、今回更に一歩を進めて、青年團の中堅たるべき青年男女を、一ケ月間研修所に收容して、訓練を施すことゝなつた、即ち愛國青年隊を結成して、之が訓練に當らしめんとするもので、既に其の實施案も出來上つたので、近く實施に移すことゝなつてゐる、其の概要は次の如くである

一、目的　青年團員の訓練

二、實施機關　臺中州下を三區に分ち、臺中、彰化、斗六の三ケ所に研修所を設置して實施する

三、實施期日　臺中は昭和十五年九月三十日より十一月二十九日まで、彰化は十月一日より十二月二十九日まで、斗六は十月二日より十二月三十日まで

四、研修生　臺中は男子二百五十名、女子二百名、彰化は男子二百名、女子百五十名、斗六は男子二百名、女子百五十名

五、研修生の資格　臺中は昭和十五年九月三十日現在の年齢十七年以上二十五年以下の青年團員、彰化は昭和十五年十月一日現在の年齢十七年以上二十五年以下の青年團員、斗六は昭和十五年十月二日現在の年齢十七年以上二十五年以下の青年團員

六、研修生の選定　各郡市青年團の團長が、團員の中から、學業、品行、身體共に優秀なる者を選定し、之を郡市青年團聯合會に於て決定する

七、研修生の募集　各郡市青年團聯合會に於て、研修生の募集を行ひ、研修生の氏名を記入の上、臺中は昭和十五年九月二十日、彰化は同年十一月二日、斗化は同年十一月十日迄に、其の他に依り發表する

八、研修生に對する費用　研修生に對する費用は、臺中は一人一日金五十錢、彰化は一人一日金四十錢、斗六は一人一日金三十五錢とし、之を各郡市青年團聯合會に於て負擔する

九、研修生の服裝　研修生の服裝は、男子は國民服又は洋服、女子は國民服又は和服とし、何れも白色の帽子を着用すること

十、研修生の携帶品　研修生の携帶品は、洗面具、筆記具、手拭、下駄、運動靴、運動着、雨具、寢具、食器、一週間分の着替、其の他必要品とし、寢具は各自持參すること

十一、研修生の心得　研修生は、研修中は勿論、往復の途中に於ても、團體の名譽を重んじ、團體の規律を嚴守し、一致協力して研修の目的を達成するに努めること

十二、研修生の賞罰　研修生にして、研修中成績優秀、品行方正なる者は、之を賞し、又研修中成績不良、品行不正なる者は、之を罰すること

十三、研修生の取扱　研修生の取扱は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

十四、研修生の引率　研修生の引率は、各郡市青年團聯合會に於て、適當の人員を選定して之に當らしめること

十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

二十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

三十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

四十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

五十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

六十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

七十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

八十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

九十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百二十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百三十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百四十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百五十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百六十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百七十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十六、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十七、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十八、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百八十九、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百九十、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百九十一、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百九十二、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百九十三、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百九十四、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百九十五、研修生の賞與　研修生の賞與は、臺中は臺中州青年團聯合會、彰化は彰化郡青年團聯合會、斗六は斗六郡青年團聯合會に於て之を行ふこと

百九十六、研修生の賞與　

皇道翼贊運動

結婚も純"國語"型
六十五戸大家族の如く
一路！皇民化に邁進

嘉南部落

▲國語の普及狀況　國語を解し、これに依る施設全般何れも部落の指導的地位にある青年層の熱意ある努力に俟つ處多大なるものがあり、本部落としても國語の普及徹底を期し、今や殆ど全員國語を解するに至つたが、尚ほ一層の徹底を圖つてゐる

▲國語常用狀況　國語の普及に伴ひ國語常用狀況にも著しきものがあり、部落會、國語講習會、國語家庭等の會合は勿論、日常の會話に於ても國語を以つて行はれ、何れも全員國語を以つて會話してゐる

▲皇國精神の涵養　精神方面の指導として部落民の國體觀の國語を以つて行はれ、何れも全員國語を以つて會話してゐる

▲皇國精神の涵養　精神方面の指導として部落民の國體觀の國語を以つて行はれ、何れも全員國語を以つて會話してゐる

嘉南部落會役員

◇…嘉南部落振興會…◇

嘉南部落は臺南市の北郊、台中市の東南部に位し、部落會は烏山頭貯水池を控える高臺に在り、戸數は六十五戸、人口四十二三名、女二八五名、計三三八名（內通人を除く）の小部落で、部落民の五分ノ一は嘉南大圳組合の「終戰記念」は目下建設中であり、既ち大圳組合烏山頭支所を中心に形成された一部落で、大正九年同組合大圳埤工事竣工と同時に建設された部落である、本部落民の職業は殆ど全部が組合關係に依り出來上つた部落である故に何れも組合關係の仕事に從事し、殊に一家總出で組合關係の仕事に從事してゐる家庭が多い、共同一致の美風があり、部落の向上發展に對しては極めて協調的態度を有してゐる為めで、昭和十三年九月十日の第四十三回始政紀念日を以て部落振興會の優良式と皇民奉公の精神を具現したが、會員以外の一般人にならが、會員以外の一般人にならが、會員以外の一般人になら

（第三種郵便物認可）

悲しき御歸還

故北白川宮永久王殿下の御遺骸は六日午後五時四十五分立川飛行場御着
御靈車に移し奉つた（御寫眞の上）下は御靈車奉迎の在京都隊

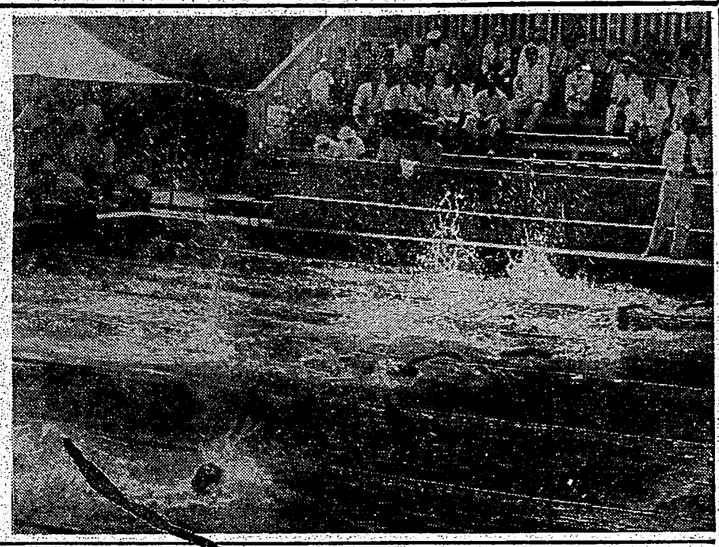
大妃殿下には終始毅然たる御態度

側近一同唯々感位申上ぐ

【東京七日發同盟】故北白川宮永久王殿下の御薨去を悲しませられた成久王妃殿下には六日午後六時五十分御着京の御列車にて御歸京遊ばされたが、御着京の際は御出迎の御一族の方々を始め御近親の方々、宮内省、陸海軍、侍從武官長、侍從長、侍從職幹事、東京都長官、警視總監、東京衛戍總督、東京憲兵隊長、東京警備司令官、東京陸軍病院長、東京海軍病院長、東京都市長、東京都會議長、東京都會副議長、東京都會議員、東京都會書記長、東京都會事務官、東京都會參事會員、東京都會參事會員書記長、東京都會參事會員書記、東京都會參事會員書記長、東京都會參事會員書記、東京都會參事會員書記長、東京都會參事會員書記

後藤孃の臺灣新記錄

二百米平泳に3分17秒5



奉祝水上第一日

（紀元二千六百年奉祝全臺水上競技大會は愈〻水上第一日の十日午後一時より州廳プールにて行はれた、定刻の如き入場式のあつて二時三十分男子四百米總合に於つて總督の始球開會を宣言とも總督の不足から比較的閑散の中に北飯岡島に於ける全臺水泳中等大會に二つの大新記錄を樹立して幕を閉いた飯久子嬢（北一）をは此日二百米平泳競技に三分十七秒四を以つて自己の持つ三分十八秒四を破つて臺灣新記錄を樹立した此外百米背泳競技に於ても新人後藤孃が總督杯獲得を期へて二組とも成績女子百米平泳競技に於ては吉原孃（北一）が一分百十一秒の九、十位の間にガン張る事々元氣一杯の競技振りを示した、第一日競技左の如し（各競技は日の競技）

▲男子の部

▲一〇〇米自由形決勝【A組】1北岡A組（在野、佐々木、杉本、宮地）1分05秒、2日本橋（栄2分4秒、3北三中、4中島

【B組】1臺中倶樂部（森原、岡田、關川、馬場）2分3秒1、2北岡B組2分3秒8、3臺中（北三中）3分17秒9、4臺北（北三中）

【B組】1幾井（臺中出）3分0秒、2米（北岡）3分7秒7、3林田（北二組）

【C組】1社本（北岡）3分2秒5、2社本（北二組）3分8秒5、3近藤（北七）

【D組】1陳（屏東）3分0秒2、2岡田（臺水）3分10秒8、3佐久間（北二中）

【E組】1池田（北岡）3分0秒9、2佐久間（北二組）3分0秒6、3淵田（臺水）

▲一〇〇米背泳競走【A組】1笹原（臺南）2分3秒、2吉川（北二組）3分3秒、3野本（中國）

【B組】1廣部（屏東）2分57秒8、2長谷（北岡）3分07秒8、3岡本（臺南）3分10秒2、4吉岡（北二）

▲一〇〇米平泳競走【A組】1尾島（北岡）3分10秒2、2吉岡（北二）3分17秒9、3澁水（北三中）

【B組】1幾井（臺中出）3分0秒、2米（北岡）3分7秒7、3林田（北二組）

【C組】1社本（北岡）3分2秒5、2社本（北二組）3分8秒5、3近藤（北七）

【D組】1陳（屏東）3分0秒2、2岡田（臺水）3分10秒8、3佐久間（北二中）

【E組】1池田（北岡）3分0秒9、2佐久間（北二組）3分0秒6、3淵田（臺水）

▲一〇〇米背泳競走【A組】1笹原（臺南）2分3秒、2吉川（北二組）3分3秒、3野本（中國）

【B組】1廣部（屏東）2分57秒8、2長谷（北岡）3分07秒8、3岡本（臺南）3分10秒2、4吉岡（北二）

▲一〇〇米自由形決勝【A組】1北岡A組（在野、佐々木、杉本、宮地）1分05秒、2日本橋（栄2分4秒、3北三中、4中島

【B組】1臺中倶樂部（森原、岡田、關川、馬場）2分3秒1、2北岡B組2分3秒8、3臺中（北三中）3分17秒9、4臺北（北三中）

【C組】1大阪（帝大）1分4秒2、2前田（北岡）1分8秒2、3關川（臺中倶）4河西（中國）

【D組】1臺原（臺中倶）1分9秒、2岡田（北二中）1分9秒8、3大島（北七）4森原（中國）

▲一〇〇米背泳競走【A組】1川口（臺南）1分38秒4、2吉川（臺中倶）3分4秒4、3臺原（中國）4岡原（北二）

【B組】1藤本（北岡）1分2秒4、2黒谷（臺中倶）1分50秒8、3田中（中國）

【C組】1山崎（北岡）1分3秒4、2淵田（臺水）1分40秒2、3岡野（北二中）4吉田（北二組）

【D組】1原口（臺南倶）1分4秒2、2前田（北二中）1分8秒3、3原田（臺水）

【E組】1吉原（臺南倶）1分17秒2、2原口（臺南倶）1分19秒6、3吉田（北二組）

【F組】1山崎（北岡）1分23秒3、2原口（臺南）1分24秒7、3前田（北二中）、4米（北岡）

▲一〇〇米背泳競走【A組】1吉原（臺南）1分19秒8、2吉川（北二組）3分3秒、3野本（中國）

【B組】1佐々木（北岡）1分23秒2、2岡野（北二中）1分24秒5、3三島（北二中）

【C組】1廣部（屏東）1分19秒4、2多賀（臺中）1分21秒7、3田中（北二組）

▲一〇〇米平泳競走【A組】1大塚（帝大）1分3秒7、2杉本（北岡）1分3秒8、3林田（中國）

【B組】1佐々木（北岡）1分4秒1、2吉田（北二組）1分3秒、3幾井（臺中出）1分24秒5、4前田（中國）

【C組】1社本（北岡）1分23秒2、2佐々木（北二組）1分24秒7、3前田（北二組）

▲一〇〇米背泳競走【A組】1吉原（臺南）1分19秒8、2吉川（北二組）3分3秒、3野本（中國）

【B組】1廣部（屏東）1分19秒4、2多賀（臺中）1分21秒7、3三島（北二中）

▲一〇〇米平泳競走【A組】1吉原（臺南）1分19秒8、2吉川（北二組）3分3秒、3野本（中國）

【B組】1佐々木（北岡）1分4秒1、2吉田（北二組）1分3秒、3幾井（臺中出）1分24秒5、4前田（中國）

【C組】1社本（北岡）1分23秒2、2佐々木（北二組）1分24秒7、3前田（北二組）

▲一〇〇米背泳競走【A組】1大塚（帝大）1分3秒7、2杉本（北岡）1分3秒8、3林田